

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査目的

「ひきこもり」に該当する子ども・若者がどの程度存在し、どのような支援を必要としているのかを把握することで、地域支援ネットワークの形成を促進するための基礎資料とする。

2 調査項目

- (1) 基本的属性について (Q 1～Q 8)
- (2) 学校に関すること (Q 9～Q 12)
- (3) 就労に関すること (Q 13～Q 17)
- (4) 普段の活動に関すること (Q 18～Q 19)
- (5) ひきこもりの状態に関すること (Q 20～Q 23)
- (6) 相談機関に関すること (Q 24～Q 26)
- (7) 自分についてあてはまること (Q 27～Q 29)
- (8) 家庭の状況について (Q 30)
- (9) 悩み事の相談に関すること (Q 31～32)

3 調査対象

- (1) 母集団 全国の市区町村に居住する満15歳から満39歳の者
- (2) 標本数 5,000人

4 調査時期

平成22年2月18日～2月28日

5 調査方法

調査員による訪問留置・訪問回収

6 調査実施機関

社団法人 新情報センター

7 標本抽出方法

地 点 数：200 市町村 200 地点

抽 出 方 法：層化二段無作為抽出法

〔層 化〕

(1) 全国の市町村を、都道府県を単位として次の 11 地区に分類した。

(地 区)

北海道地区＝北海道	(1 道)
東北地区 ＝青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	(6 県)
関東地区 ＝茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、 神奈川県	(1 都 6 県)
北陸地区 ＝新潟県、富山県、石川県、福井県	(4 県)
東山地区 ＝山梨県、長野県、岐阜県	(3 県)
東海地区 ＝静岡県、愛知県、三重県	(3 県)
近畿地区 ＝滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	(2 府 4 県)
中国地区 ＝鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	(5 県)
四国地区 ＝徳島県、香川県、愛媛県、高知県	(4 県)
北九州地区＝福岡県、佐賀県、長崎県、大分県	(4 県)
南九州地区＝熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	(4 県)

(2) 各地区においては、さらに都市規模によって次のように 23 分類しそれぞれを第 1 次層として、計 63 層とした。

○ 大都市（都市ごとに分類）

（東京都区部、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、新潟市、
静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、岡山市、
北九州市、福岡市）

○ 人口 20 万人以上の市

○ 人口 10 万人以上の市

○ 人口 10 万人未満の市

○ 郡部（町村）

（注）ここでのいう都市とは、平成 21 年 4 月 1 日現在市制施行の地域である。

また、人口による都市規模の分類は、住民基本台帳に基づく平成 21 年 3 月 31 日現在の人口による。

[標本数の配分及び調査地点数の決定]

地区・都市規模別各層における母集団数（平成 21 年 3 月 31 日現在の満 15～39 歳人口）の大きさによりそれぞれ 200 地点を比例配分し、各調査地点の標本数を 25 にした。

[抽 出]

(1) 第 1 次抽出単位となる調査地点として、平成 17 年国勢調査時に設定された調査区を使用した。

(2) 調査地点（調査区）の抽出は、調査地点数が 2 地点以上割り当てられた層については、

$$\text{抽出間隔} = \frac{\text{層における国勢調査時の当該母集団人口（計）}}{\text{層で算出された調査地点数}}$$

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。また、層内での調査地点数が 1 地点の場合には、乱数表により無作為に抽出した。

(3) 抽出に際しての各層内における市区町村の配列順序は、平成 17 年国勢調査時の市区町村コードに従った。

(4) 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）で標本となる対象者が抽出できるように、

$$\text{抽出間隔} = \frac{\text{調査地点における国勢調査時の当該母集団人口}}{\text{調査地点抽出標本数}}$$

を算出し、住民基本台帳より等間隔抽出法によって抽出した。

[結果]

以上の抽出作業の結果得られた地区別標本数・調査地点数は次のとおりである。

	大 都 市					上段…標本数、下段…地点数				計
	東京都区部	横浜・京都	川崎・名古屋・大阪	千葉・静岡・神戸・広島・北九州	その他の政令市	人口20万以上の市	人口10万以上の市	人口10万未満の市	郡部(町村)	
北海道					75 (3)	25 (1)	25 (1)	25 (1)	25 (1)	175 (7)
東北					50 (2)	100 (4)	50 (2)	100 (4)	50 (2)	350 (14)
関東	400 (16)	150 (6)	75 (3)	50 (2)	50 (2)	450 (18)	300 (12)	225 (9)	75 (3)	1775 (71)
北陸					25 (1)	50 (2)	25 (1)	75 (3)	25 (1)	200 (8)
東山						50 (2)	25 (1)	75 (3)	25 (1)	175 (7)
東海			100 (4)	25 (1)	25 (1)	125 (5)	125 (5)	75 (3)	50 (2)	525 (21)
近畿		50 (2)	100 (4)	50 (2)	25 (1)	250 (10)	100 (4)	175 (7)	50 (2)	800 (32)
中国				50 (2)	25 (1)	50 (2)	75 (3)	50 (2)	25 (1)	275 (11)
四国						50 (2)	25 (1)	50 (2)	25 (1)	150 (6)
北九州				25 (1)	75 (3)	75 (3)	25 (1)	100 (4)	50 (2)	350 (14)
南九州						75 (3)	50 (2)	50 (2)	50 (2)	225 (9)
計	400 (16)	200 (8)	275 (11)	200 (8)	350 (14)	1300 (52)	825 (33)	1000 (40)	450 (18)	5000 (200)

8 回収結果

(1) 有効回収数(率) 3,287人(65.7%)

(2) 調査不能数(率) 1,713人(34.3%)

— 不能内訳 —

転居	346	長期不在	76	一時不在	623
住所不明	83	拒否	515	その他	70
				(病気など)	

9 性・年齢別回収結果

性・年齢		標本数	回収数	回収率	性・年齢		標本数	回収数	回収率
				%					%
男	15～19歳	402	301	74.9	女	15～19歳	397	303	76.3
	20～24歳	425	244	57.4		20～24歳	451	267	59.2
	25～29歳	499	301	60.3		25～29歳	482	300	62.2
	30～34歳	537	323	60.1		30～34歳	546	380	69.6
	35～39歳	615	397	64.6		35～39歳	646	471	72.9
計		2,478	1,566	63.2	計		2,522	1,721	68.2

10 本報告書を読む際の留意点

- (1) nは質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 標本誤差は回答者数(n)と得られた結果の比率によって異なるが、単純任意抽出法(無作為抽出)を仮定した場合の誤差(95%は信頼できる誤差の範囲)は下表のとおりである。

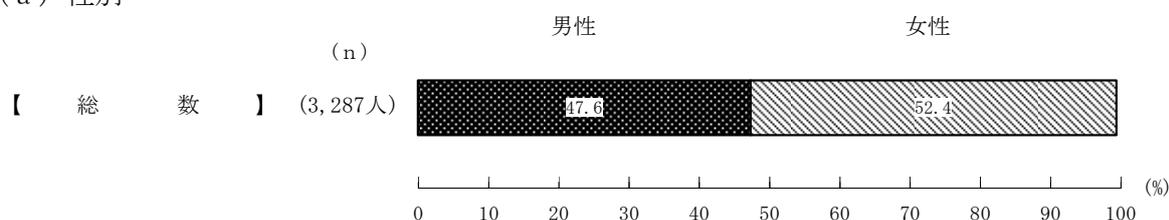
n \ 各回答の比率	10% (又は90%)	20% (又は80%)	30% (又は70%)	40% (又は60%)	50%
3,000	±1.1	±1.4	±1.6	±1.8	±1.8
2,000	±1.3	±1.8	±2.0	±2.1	±2.2
1,000	±1.9	±2.5	±2.8	±3.0	±3.1
100	±5.9	±7.8	±9.0	±9.6	±9.8
50	±8.3	±11.1	±12.7	±13.6	±13.9

なお、本調査のように層化2段抽出法による場合は標本誤差が若干増減することもある。また、誤差には調査員のミスや回答者の誤解などによる計算不能な非標本誤差もある。

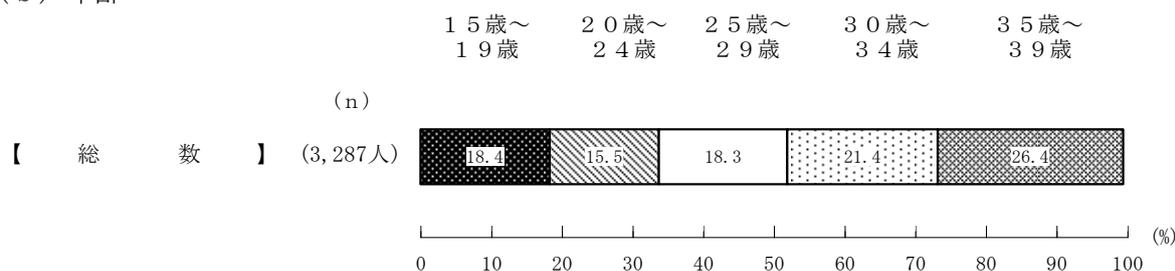
- (3) 結果数値(%)は表章単位未満を四捨五入してあるので、内訳の合計が計に一致しないこともある。
- (4) 統計表等に用いた符号は次のとおりである。
- 0.0 : 表章単位に満たないが、回答者がいるもの
 - : 回答者がいないもの
 - M.T. : Multiple total の略で、回答数の合計を回答者数(n)で割った比率であり、通常その値は100%を超える。
- (注) 回答の選択肢が長い場合、その一部を省略して表章して集計してあるものがある。

11 対象者の属性

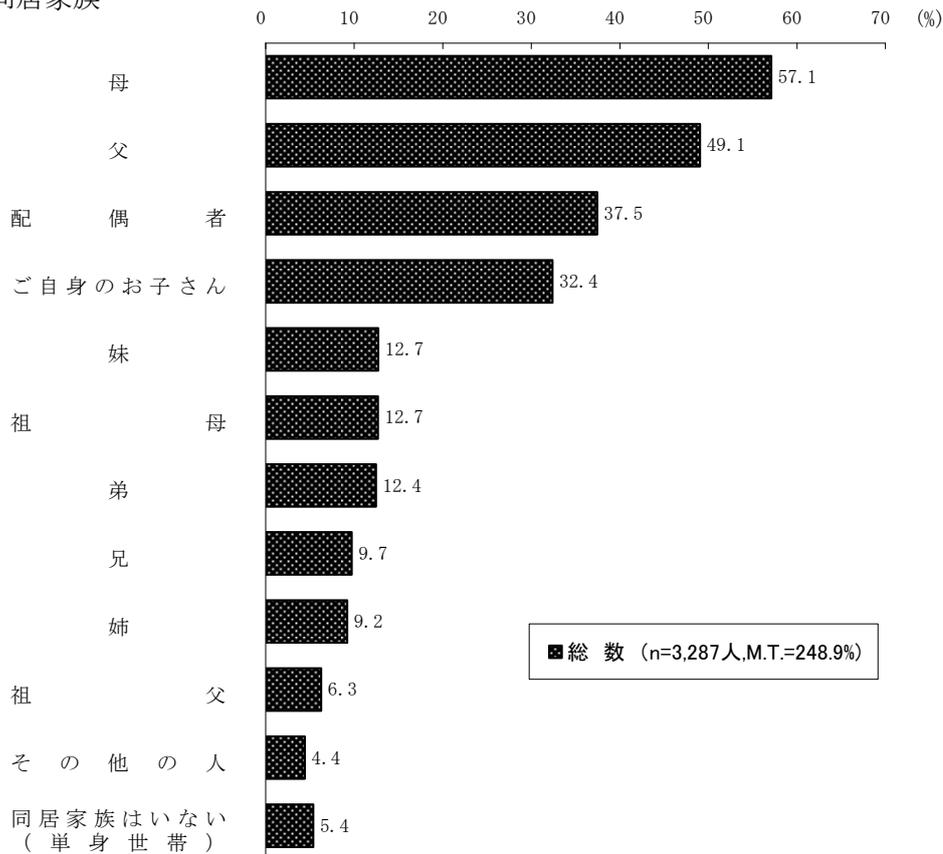
(a) 性別



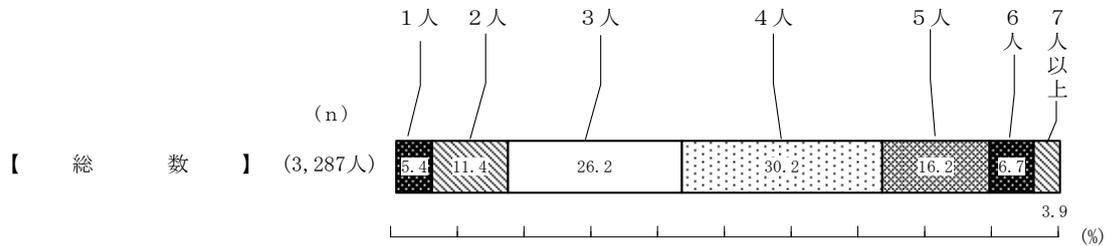
(b) 年齢



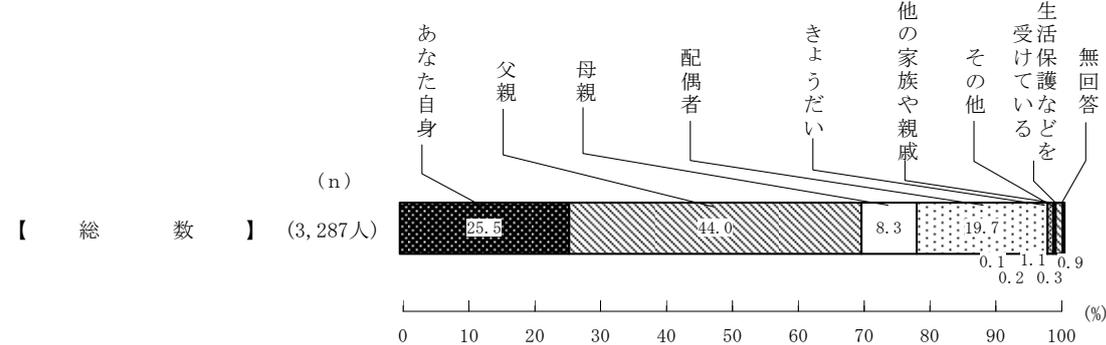
(c) 同居家族



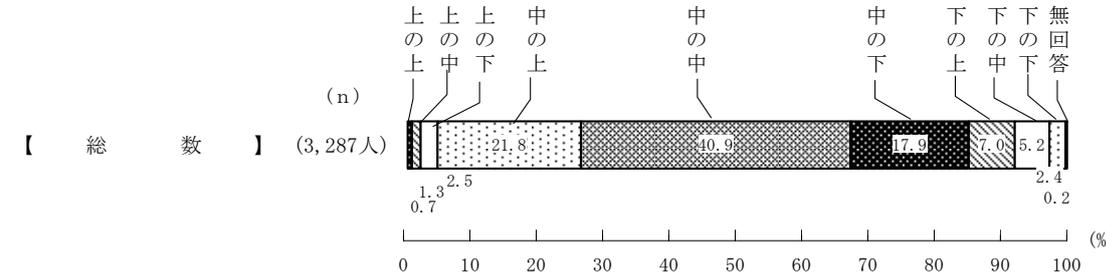
(d) 同居人数



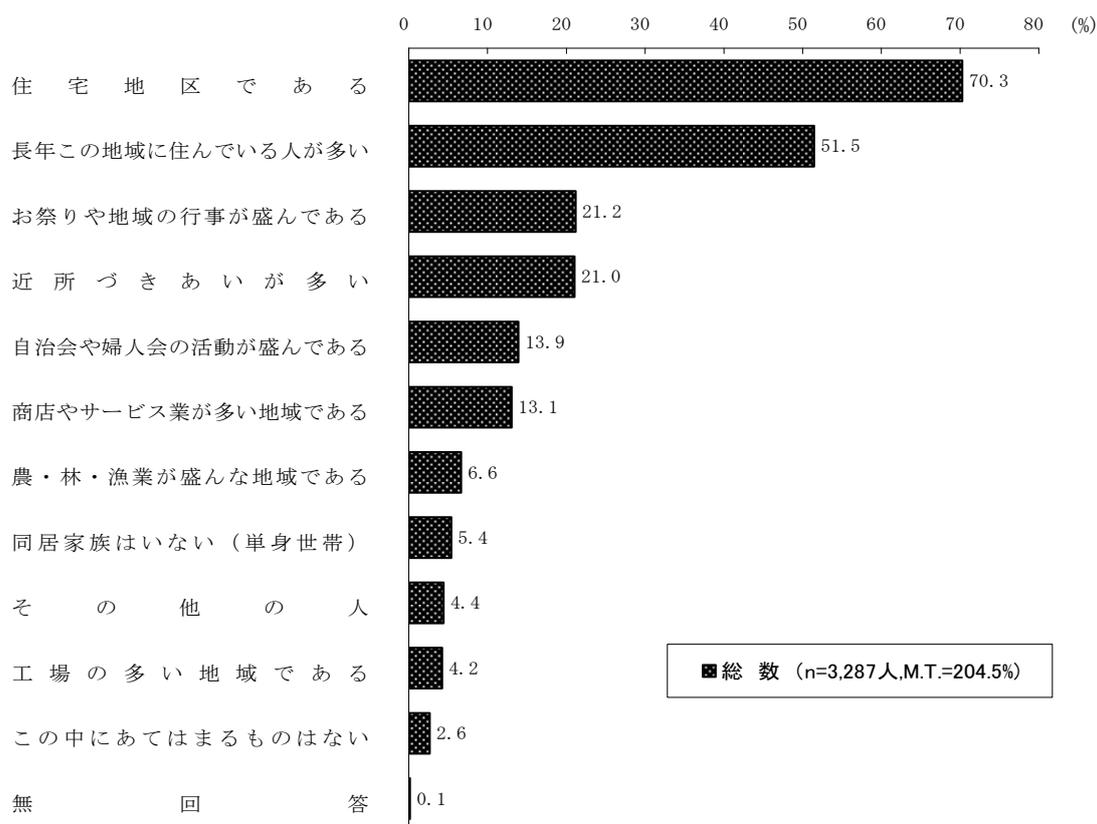
(e) 主生計者



(f) 暮らし向きの意識



(g) 居住地域の様子



(h) 病気やけがでの通院・入院経験

